

## INTERVIEW

インターナショナルスクールという

# インターから続く一本の道が 今につながる

インターナショナルスクールを出た後に見えてくる進路とは？  
インターと日本、両方の学校で学んできた川崎裕さんに聞きました。

文＝岩本恵美 Iwamoto Emi 写真＝大野洋介 Ono Yosuke



個性が尊重され、  
自己表現力が培われた

## 川崎 裕さん

Yu's History

1歳	オーストラリアで1年過ごす
5歳	西町インターナショナルスクール幼稚部
6～15歳	西町インターナショナルスクール
15～18歳	国際基督教大学(ICU)高等学校
18～22歳	京都大学経済学部 (3年次ベンシルベニア大学に交換留学)
22～23歳	サセックス大学大学院映像学科修士
23歳	帰国、吉本興業に就職

教育環境を考える  
個性が尊重され、  
自己表現力が培われた  
西町時代に親しんだ演劇へ  
力を発揮する力や、感情の出し方、言いたい  
ことをはつきりと伝える姿勢  
英語力だけでなく  
論述の力も養われた  
ICU高校では、英語の力  
西町時代に親しんだ演劇へ  
力を発揮する力や、感情の出し方、言いたい  
ことをはつきりと伝える姿勢  
英語力だけでなく  
論述の力も養われた  
西町時代に親しんだ演劇へ

## 幼

稚部から中等部まで、  
西町インターナショナルスクール(東京都港区、以下  
西町)に通った川崎裕さん。同

校で日本語教員をしていた母  
(次ページの美智子さん)の導  
きだった。入学後は、授業の  
ほか、放課後に上級生たちが  
英語の本の読み聞かせをして  
くれたり、自らが音読したり

する「アフター・スクール・リ  
ーディング」に積極的に参加  
し、英語力を磨いた。西町の  
授業の中でも、川崎さんが「受  
けたよかつた」と振り返るの  
がドラマ(演劇)のクラスだ。

「スケルトン先生」という陽気  
で優しい先生がいて、生徒の  
表現する力を積極的にほめて  
モチベーションを上げてくれ  
ました。自分の個性が認めら  
れてうれしかったですね。こ  
の授業のおかげで、自己表現  
力や感情の出し方、言いたい  
ことをはつきりと伝える姿勢

が培われた気がします」

西町を卒業後は、中学校卒  
業程度認定試験で認定証書を  
獲得し、国際基督教大学高等  
学校(以下ICU高校)へ。生  
徒の3分の2が帰国生である  
ことから、雰囲気はインター  
に近いものかと思いまして、全

く違うと感じた。

「インターは良くも悪くも究  
極的に個人主義。一方で、日  
本の学校は調和を大切にする。  
私も含めて日本人には多少な  
りとも帰属意識みたいなもの  
があるのを感じました」

ラスはレベル別になる。川崎  
さんがいた上級クラスでは、  
英語はあくまでも学習手段。

英語で何かを調べたり学んだ  
りする授業で、英語の応用力  
はしっかりとキープできたそう  
だ。全日本高校模擬国連大会  
にも出場し、最優秀賞を獲得  
した経験もある。

「西町でもICUでもプレゼ  
ンテーションやりリポートが多  
かったので、自分の意見をま  
とめることには自信がありました。  
した。それもあって、大学は  
論述試験がある京都大学経済  
学部を受験したんです。受験  
勉強では英語を勉強する必要  
がない分、他の科目に時間を  
まわせました」



西町インターナショナルスクール時代の一コマ。インターならではのドラマ(演劇)のクラスは、川崎さんが大好きだった授業の一つだ。

の興味は冷めやらず、大学では演劇サークルに所属。とあるオーディションをきっかけに、英国のサセックス大学大学院映像学科へ留学する機会も得た。順風満帆にしか見えない川崎さんの歩みだが、就職活動ではちょっとした壁にぶち当たる。帰国後、2020年3月から就活を始めるも、個性を尊重するインターではよしとされていた自己アピールが日本の就活ではマイナスとなることもあった。

「海外の就活では自分の能力をアピールすることが大事なのですが、日本の就活ではその会社に入つてやりたいことや、周りと一緒にどう働いてる場所や交流の幅も広がるし、日本人的な視点とは別の視点を持つことで俯瞰して物事を見ることができます。それは大きな強みだと思いますね」

「インターを選んでよかったか」との問い合わせ、「よかった」と声をそろえた川崎さんと母の美智子さん。



インターで使われる教科書の一例。「西町でも似たようなテキストで勉強していました」と川崎さん。

いくのかというところを見ら  
れている気がしました」

そんななか、川崎さんの就

活に終止符を打つてくれたのは、他でもない英語力だった。

「英語ができるエンタメ系ビジネスに理解ある人を吉本興業で求人していく、運よく拾つてもらいました。企業営業という部署で、海外企業と吉本興業をつなげる、橋渡しのような仕事をしています」

最後に、インターに行つてよかつたかを尋ねてみた。「総合的にはよかったです。インターは、英語をネイティブ言語にしたい人にはいい環境。英語ができることで行ける場所や交流の幅も広がるし、

日本語で学ばせたいと思ったのは、英語を身につけさせたいというよりも、インターの教育の自由さ、そして子どもたちが人を肯定的に見ているところにひかれたからです。

インターでは、教育上、他人と比較して競争をさせません。やらなかつたことに対しても怒られますが、やつたことに対する失敗しても必ずほめてくれます。ちょっとでも良いところがあると、それを拾つて評価してくれる。そういう環境だからこそ、「自分は自分」という強い姿勢が生まれたんだと思いますね。娘の京大受験に付き添つた際、昼夜のみに本人が「もうダメだ」と弱音を吐いたので、「京都見物でもして帰ろう」と言ったのですが、休憩が終わるころには「他人は他人。最後までやる」と気持ちを切り替えて、試験会場へと戻つて行きました。こうした強さは親としては大変ありがたいと思っています。

一方で、教育者としては日本語力の点で注意が必要だと感じています。英語と日本語では構造も違いますし、言語に付随する文化も異なります。インターにも日本語の授業はありますが、「使わない

保護者・  
教育者として

## バイリンガルをめざすなら手作り教育を



美智子さん開発の英語学習教材。算数で英語を学ぶという画期的なメソッドだ。

娘をインターで学ばせたいと思ったのは、英語を身につけさせたいというよりも、インターの教育の自由さ、そして子どもたちが人を肯定的に見ているところにひかれたからです。

娘は、英語を身につけさせたいと思うのではなく、「いちにゃん」と音読みできても「ひとつ、ふたつ、みつ」という訓読みは知らない。そうなると、「二日、三日」も「ふつか、みつか」とは読めないんです。ですから、家庭で日本語学習をフォローする際は、「母国語」として意識的に取り組む必要があります。子どもの教育は、一度進路を決めたら簡単には引き返せないものです。バイリンガルをめざすならどこかの家庭のまねや情報に振り回されるのではなく、一から教育を手作りするつもりで、自分たちの家庭の教育方針をしっかりと考えて決めていくことが大事だと思います。



川崎美智子さん  
Kawasaki Michiko  
エプシロン代表

2007年に理科・算数を通して英語を学ぶマリースクールを開校。現在、学校や塾、個人への英語教育コンサルタントも務める。